



# 令和6年度 一般社団法人 国宝修理装演師連盟 文化財保存技術（装演） 伝承者養成等事業の紹介

国宝修理装演師連盟は、選定保存技術である装演修理技術の保存団体として、修理技術者の装演に関する技術の習得と向上を目指し、後継者育成や周辺材料の探求につながる様々な事業を展開しています。令和6年度に実施した事業の一部をご紹介します。

## 【主な事業】

定期研修会、修理技術者資格制度、近現代絵画の修理ガイドライン作成、補修紙作製研修、紙検査中級研修、指定文化財修理記録データベース作成、紙繊維データベース作成、間似合紙の確保

※これらの事業は文化庁「国宝重要文化財等保存・活用事業費補助金」により実施しています。

## 定期研修会

将来の修理技術者を養成するため、また啓蒙運動の一端として基礎知識の取得と向上のため研修会を実施。講演、修理事例発表、連盟加盟工房によるテーマに関連したポスターセッションなどを行った。

本会では、例年を上回る参加者を得た。外部からも多くの関係者や学生の皆さんにご来場いただき、情報交換や交流を深める大変重要な場となった。

令和6年度 第28回定期研修会

テーマ「鑑賞と保存の基礎知識 - 仏画・襖絵 -」

日時：令和6年10月31日（木）

10：00～17：30

場所：京都府民総合交流プラザ

京都テルサ テルサホール

参加人数：407人



## 修理技術者資格制度

平成15年度より始まった登録技術者資格制度をより発展させ、連盟加盟工房以外の外部登録技術者にも門戸を開き、技術・技能の向上に努めた。

資格試験のほか、新入の技術者が受ける新任者研修会、登録審査、技師に昇格するための初級講習会、主任技師試験を受ける者が受講する中級講習会、技師長試験を受ける者が受講する上級講習会を実施した。

国宝修理装演師連盟修理技術者資格試験

出願者及び合格者数（令和6年度）

出願者：3名

合格者：2名（技師長1名、主任技師1名）



## 近現代絵画修理ガイドライン作成

昨今修理する機会が増えてきた近代の絵画については、新材料が使用されている場合があり、修理の際に注意が必要な場合がある。これらの取り扱い等、今後統一した指針のもとに修理事業が実施され、安全かつ確実に次世代に継承されるための一助として、当連盟が伝世品文化財の修理を通じてこれまで培ってきた経験を生かし、外部有識者の意見を仰ぎながらガイドラインを作成してきた。本事業は令和2年度より、東京芸術大学の受託研究として実施した。

令和6年度は、これまでのまとめとして、連盟定期研修会でのポスター発表にてこれまでの取り組みについて報告し、公開研究成果発表会を開催した。

また、『近現代日本画保存修復ガイドライン - 作品の価値を損ねない修復・可逆性のある修復 -』をまとめ、刊行した。



ガイドラインはこちらから

## 補修紙作製研修

紙を本紙とする文化財を修理する上で欠かせない補修紙について、若手の手漉き紙の生産者と連携し、よりよい補修紙とは何か研究を進めている。

これまで復元的に製作してきた「鎌倉時代の檀紙」の総括およびそれを基にした檀紙修理用の補修紙を試作し、関係者との意見交換を行った。

用具、原材料不足、燃料費等の高騰もあり、用具の製作、原材料の確保も同時に行った。

昨年度は、本事業の過年度において習得した「鎌倉檀紙」の復元技術を基にし、実際に古文書の修理で使用可能な補修紙製作を目指す。同時に生産者へ共通の視点で発注が可能となる「見本帳」の作製についても具体的な検討を行う。



## 紙検査中級研修

現在国内において文化財の繊維検査に特化した対応ができるのは高知県立紙産業技術センターのみであるが、センターでの検査業務継続が危うい状況となっている事情もある。新たな研修生を選定し、対応できる技術者を増やし、より高度な分析技術を習得させる目的とした研修を行った。

加盟工房より提供を受けた実際の文化財から得た試料に対し、2名の研修生が繊維種の判定を行った。専門職員の指導の下、顕微鏡下での繊維の観察や染色液を用いた検査実習を行い、研修生の観察力向上を目指す。研修で行った検査結果は成績報告書としてまとめ、試料提供を受けた工房へ発行する。

第1回目：令和6年8月5日～9日の5日間

第2回目：令和6年11月25日～29日の5日間

計10日間（於：高知県立紙産業技術センター）



## 指定文化財修理記録データベース作成

過去に連盟加盟工房が施行してきた国庫補助事業の情報を集約し、加盟工房はもちろん、文化庁や関連自治体等が修理情報への円滑なアクセスを可能にするため修理報告書データベース化を目指した。今年度は令和5年度に竣工した国指定品の修理報告書データ（必要に応じて不足しているものは過去に遡る）を収集した。

昨年度に引き続き、各社で作成している令和5年度に竣工した国指定品の修理報告書データを収集し、絵画、書跡・典籍、古文書、歴史資料の分類、絹本、紙本などの分類を定期的に記号化してデータベースの構築を実施した。また、蓄積したデータについて東京文化財研究所と共有し、連携を強化した。

品名	種別	修理内容	竣工日	備考
〇〇〇〇〇〇	絵画	〇〇〇〇〇〇	〇〇〇〇	〇〇〇〇
〇〇〇〇〇〇	書跡	〇〇〇〇〇〇	〇〇〇〇	〇〇〇〇
〇〇〇〇〇〇	古文書	〇〇〇〇〇〇	〇〇〇〇	〇〇〇〇
〇〇〇〇〇〇	歴史資料	〇〇〇〇〇〇	〇〇〇〇	〇〇〇〇

## 紙繊維データベース作成

昭和40年代から高知県立紙産業技術センターに紙文化財の料紙組成検査を依頼した成績表をアーカイブ化、データ化することで、これまで修理してきた文化財の料紙データを広く活用出来るよう加盟工房に保管されている検査結果を試験的にデータ化し、所要時間や必要な情報の検討を行った。

また、データベースのための仕様を検討し紙の報告書から取得しデータ化する項目、その精度、データ管理のためのルール作りなどを進めた。



## 間似合紙の確保

修理に必要な手漉き紙は生産者の高齢化、後継者の不在が喫緊の課題となり、質の高い紙の確保が難しくなりつつある。特に襖の下貼りに欠かせない間似合紙は、質の高いものを供給する生産者が実質1名となっており、供給が間に合わない状況にあった。

本事業に於いて後継者の育成や紙漉き道具の確保を行った結果、高知県手漉き和紙協同組合の管理のもと生産性が整いつつあり、引き続き一定量の発注を行う事で安定的供給体制を確立していくものである。

本年度（令和6年度）は発注量を1000枚とし3月中に納品されたことを確認した。

